

仕 様 書

- 1 件 名 学童クラブ非常通報装置（学校 1 1 0 番）保守点検業務（第一学童クラブほか 2 2 か所）
- 2 履行場所 第一学童クラブほか 2 2 か所（一覧表のとおり）
- 3 業務概要
 - (1) 機械保守
通報装置本体の自己診断機能及び保守センターによる遠隔監視により、装置ならびに通信回線の状態を常にチェックし、異常発生時には直ちに保守技術者を派遣して対応する。
 - (2) 定期巡回保守
3 か月に 1 回以上の頻度で保守技術者が各施設を巡回し、通報装置の状態を測定や実地試験により把握し、不良が認められた場合には、部品交換を行うなどの適切な対応を講じる。
 - (3) 保守技術者の派遣
必要に応じて保守技術者を派遣して通報装置の実地点検を行い、動作不良や機能低下に際して、調整または部品交換等により機能の復旧を図るほか、有償修理が必要な場合は、市に提案を行う。
 - (4) 通報プログラムの改良及び交換
通報装置のプログラムについて、バグの修正或いはバージョンアップを適切かつ遅滞なく実施する。
 - (5) 市及び関係機関への報告
発報や異常発生状況及び保守点検作業結果については毎月 1 回、市及び東京都に適切な形で報告する。
- 4 設置機器及び台数
別紙一覧のとおり。
- 5 機械保守詳細
 - (1) 定時通報
通報装置の自己診断自動送信プログラムにより、電源、通信回線、録音メッセージ、ボタン線の短絡、混触、断線等の状態を、月に 1 回以上の頻度で診断し、異常に対して迅速な対応を取れるよう、正常または異常の結果を、保守管理の拠点である保守センターへ送信する。
 - (2) 異常通報
ボタン線の短絡、混触は常時、電池電圧異常は 7 日周期以上の頻度で異常の有無を診断し、異常検出時は保守センターへ発報する。
 - (3) 異常検出時の対応と報告
試験通報時を除く異常の発報に際しては、速やかに保守技術者を派遣し、復旧に向けて対応するとともに、発報箇所及び時間について、東京都と市に速やかに報告する。

6 定期巡回保守詳細

(1) 定期巡回

3 か月に 1 回以上の頻度で保守技術者が各施設を巡回し、通報装置の機能、特性の試験または測定を行い、状態を点検する。その結果、異常が認められた場合は、速やかに原因を究明し、現場で修理可能なものは修理を行い、不良または使用済部品があれば本委託の中で交換する。復旧時は保守センターへ通報試験を行う。

※ 本委託の中で交換する部品は、コンデンサー、ダイオード、電池、配線ワイヤープロテクター、押し釦部分の亚克力板とする。

ただし、不適切な使用若しくは自然災害に起因することが明らかである場合は、市に報告し、復旧について提言を行う。

(2) 点検項目

ア パネル確認

通報装置の扉を開閉し、パネル部の各種ランプの確認を行う。

イ 作動試験

通報装置が正しく作動するか試験を行う。

ウ 録音再生試験

録音の状態を聴取し、音量及び明瞭度を確認し、所要の調整を行う。

エ 障害ブザー試験

押しボタンの配線短絡時に障害ブザーが鳴動するか試験を行う。

オ 電池電圧試験

電池の電圧等を確認、電圧低下や液漏れ等の異常時は交換を行う。

カ 押しボタン試験

各ボタンを押下し、ランプ点灯、ブザー鳴動等の作動確認を行う。

キ 局線接続試験

通信回線との接続状況について点検を行う。

(3) 実地作動試験

概ね年に 1 回、押しボタン 1 箇所程度について、施設使用者に実際に押下させて、作動試験を行う。(これは、施設使用者に対し、ボタン位置の再認識ならびに押下作動を実体験させる訓練を兼ねる。)

(4) 定期巡回結果の報告

定期巡回保守の結果については、市に報告を行う。併せて、作動試験等、東京都に届出、報告義務のあるものについても遺漏なく行う。

7 その他留意事項

- (1) 通報装置から 110 番通報するときは、事前に、警視庁に試験日程表を提出し、了解を得てから実施する。
- (2) 誤発報は、市への報告のほか、速やかに警視庁に誤報報告書を提出する。
- (3) 非常時に通報した或いは実地の作動試験や防犯訓練等により試験通報を実施した場合は、保守技術者による装置の復旧を行う。押しボタンの押下により保護の亚克力板が破損している場合は交換する。